

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
科目名		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基盤として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。	
一般教養科目群									人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化		○						・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程・現れ方などを学び、現代社会におけるそれらの意義を考える。 ・歴史を学び、これまでに形成されてきた文化や人間の有り様の表現、その広がりなどを学び、その意味について考え、探求する。 ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への裾野を広げる。
	人間と生命	◎	○	○	○	○	○	○	・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根源的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会	○	○	○					・生命の仕組みを理解し、現代社会を取り巻くさまざまな諸課題について考える。 ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。
	自然と技術	○		○					・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代でもあり、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけることを目標とする。 ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目			◎					国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力を学ぶ。
イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目				○		○		さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
基礎基盤教育科目群									大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎学力を得ること、さらには自立的学習能力や心身健康の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得する。
	ウェルネス総合演習	◎	○	○	○	○	○	○	健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしたながら演習、実習により総合的に学び、考える。
汎用的技能教育科目群									学術的な手法としてのアカデミック・スキルを理解し、さまざまな知見を応用的、創造的に発揮するための論理的思考、倫理モラル、プレゼンテーションなどについて学ぶ。
	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～	○	◎		○	◎			専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	情報科学	○	○	○					情報の取り扱いやその倫理などの基本を学ぶ。PC、計算ソフトの使いから始まって、レポート作成法、PCを用いたプレゼンテーションへの対応やインターネットの利用、そのモラルを学ぶ。
地域科学教育科目群	地域科学教育科目		◎				○		地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における担い手として必要な資質を得ることを目指して、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
外国語教育科目群									英語をはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学修を通じ、語学力や外国語を通して文化理解力の獲得を目指す。
	英語		○	◎					基礎英語は、大学で学修する上で基盤となる基礎力の確認と習得を目指す。主題別英語は主題に応じた内容の英語に関して、自主的に能動的に学修することを目指す。発信型英語は、授業に積極的に参加し、英語の運用能力を高め英語による発信力を身につけることを目指す。
	英語以外の外国語科目			◎					初修の外国語(「入門」と「初級」)について、基礎力と自ら学んでゆく発展力を学ぶ。

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知論・理解】	【2. 汎用の技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体、健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(1) 国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(2) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	
学部共通科目	総合科学入門講座		○			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。</li> <li>情報リテラシーを身につける。</li> <li>総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。</li> <li>留学その他の学習プログラムについて理解する。</li> </ul>
	科学論					○		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・社会と自然との関わりについての理解</li> <li>専門的知識を体系的に理解できる能力の育成</li> <li>論理的思考力の養成</li> <li>日本語の論理的文章を理解できる能力の養成</li> <li>日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成</li> <li>情報リテラシーの養成</li> <li>豊かな人間性の涵養</li> <li>高い倫理観の涵養</li> <li>自分で問題を発見しようとする態度の養成</li> </ul>
	情報処理基礎論		○		◎			<p>現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろぬ、重要な意思決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。</p>
	総合科学の基礎A		◎		○		○	現代日本語の基本的なしくみ(構造)とその適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識(音声・文法・語彙など)とその具体的な運用を実践的に学び、高めていく。
	総合科学の基礎B		○					文化とは何かを認識し、文化現象を分析する様々のアプローチについて学ぶ。さらに文化の表現の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎能力を獲得する。
	総合科学の基礎C		○					人文科学(哲学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
	総合科学の基礎D		◎		○		○	◎ スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。
	総合科学の基礎E		◎	○	○		○	◎ <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。</li> <li>2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。</li> </ul>
	総合科学の基礎F						○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。</li> <li>2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。</li> </ul>
	総合科学の基礎G				○			ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。
	総合科学の基礎H					○		高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちにに対して、社会的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで見られる社会現象が、どのようになかみでなっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。
	総合科学の基礎J					○		現代社会における人、企業、物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。
	Academic English I			◎				English for Global Purposesをテーマとして、日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で、高等学校で学んできた英語のルール(英文法・文型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで読解力を定着させる。また、英語で「日本」を考え、理解し、既存の英語力で発信できるようにする。
	Academic English II			◎				(1)英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2)英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。
Extensive Reading			◎				e-ラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語レベルまでの語彙力・速読力を到達目標とする。継続的の自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。	

ディプロマポリシー		ディプロマポリシー						科目の教育目標	
		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】		【3. 態度・志向性】		【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】		
科目名		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基盤として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。	
	キャリアプラン入門		○	○	○	○		大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身に着ける。	
実践学習科目	課題発見ゼミナール	○	◎	○	○	○	○	1 臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題を見つけ出すことができる 2 自らの意見・考えを正しく文章化する能力を身につける 3 プレゼンテーション能力を習得する	
	キャリアプラン		◎			○	○	1) 自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2) 将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3) 行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。	
	短期インターンシップ		◎			○	○	①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として応じたい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。	
	総合科学実践講義A			○				国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。	
	総合科学実践講義B	◎			○	○	○	◎	1. 医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。 2. 地域社会で活躍する能力の育成: それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。
	総合科学実践講義C			○					日本的経営の実態、及びグローバル化への企業の対応についての基本的な知識を修得している。
	総合科学実践講義D			○					メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。
	総合科学実践講義E			○				○	具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造・文化構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。
	総合科学実践講義F				◎				Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor.
	総合科学実践プロジェクトA			○				○	地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り、そこに可能な日本語による支援を考え、実践する。 日本語による支援の実践を通じて、多文化共生、異文化に対する理解を深める。
	総合科学実践プロジェクトB			○	◎			○	サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネジメント、コーディネイト、リーダーシップの能力を身に付ける。 ・自分の意見(感じた事や考えたこと)を自分の言葉で表現できる ・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる ・スポーツの社会的機能(役割)について理解することができる
	総合科学実践プロジェクトC	◎	◎		○	◎		◎	
	総合科学実践プロジェクトD	◎	◎		○	○	◎	◎	1. 地域における「心と身体の健康問題」を知る。 2. 地域における「健康社会づくり」を実践していくための基礎的知見を修得する。 3. 地域における「支援の在り方」について提案できる。
	総合科学実践プロジェクトE					○			1 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2 広い視野、国際的な視野を持つ。 3 行動力・積極性を身につける。 4 社会性・対人関係力を身につける。
総合科学実践プロジェクトF				○				1 地域の課題を発見できる 2 課題を解決するための政策をつくらせることができる 3 政策を提案(プレゼンテーション)できる	
総合科学実践プロジェクトG			○					地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示ができる。	
総合科学実践プロジェクトH				○				実地調査の基礎を学ぶことを通じて、自ら研究に必要な素材・視点を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようにする。	
総合科学実践プロジェクトJ		○	◎				○	・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネイト能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。	

科目名		ディプロマポリシー					【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】		【3. 態度・志向性】				
コース入門科目	コース入門講座	○	◎		○	○	○	・自らの学びの経験知にもとづいてコースにおける知の探究力を養うための学習目標を設定する ・心身健康をテーマとした基礎学力とコミュニケーションスキルを身につける	
	心身行動研究法(心理学研究法)	○	○		◎	○	○	グループとして、研究目的に適したデータ収集法を用いる研究計画の立案・実施を行なうことが出来る。その際、得られたデータの信頼性と妥当性に関する検証を行なうとともに、適切な分析方法を用いて統計処理を行ない、結果の整理・考察・報告を効果的に行なうための基本的な技能を身につける。	
	健康教育学	◎	○		◎	◎	○	1. 健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を向上する。 2. 人間科学に関わる幅広い知識を理解する。 3. 生活環境の創造へ貢献する。	
	健康科学の基礎	◎			◎	◎	○	健康科学に関わる幅広い知識を体系的に理解するとともに、健康社会学と医学の分野の融合を図ること、グローバル化する現代社会の健康問題や地域課題を的確に理解することができる。(知識・理解)	
	健康体力科学の展開(運動学(運動方法学を含む))	◎			◎	◎	○	1 健康と体力の基本的な知識を修得している 2 健康と体力の問題に関連する生理科学・運動科学の諸知見を修得している 3 人間生活における健康体力の意義を理解できる	
	発達心理学		◎				◎	◎	1. 心身の健康と関わる心理学における生涯発達心理学の位置づけが説明できる。 2. 各発達段階の特徴を説明できる。 3. 現代社会における問題と生涯発達心理学との関係を説明できる。
	臨床心理学概論	◎			○	○	○	◎	①臨床心理学の基本的な理論や技法を理解し、心の基本的な仕組みや働きについて概説できること。②心理的支援が行われている様々な領域について、具体的なイメージができることを目標とします。
	神経・生理心理学			○		○			・脳と心の関係について、基礎的な知識を修得している。 ・感覚・知覚・記憶・認知の生理学的基礎に関するこれまでの知見を修得している。 ・これまでの生理学的研究法や、最新の研究法について理解できる。
	心理学概論					○	○	◎	1. 公認心理師養成での本科目の位置づけが理解できる。 2. 心理学の成り立ちがわかる。 3. 人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。
	心理学実験実習Ⅰ	◎			◎			○	心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験し、具体的にそれらの手法を身につけ、加えて統計処理やレポートの書き方等、心理学の研究に必要な基礎知識を獲得する。
心理学実験実習Ⅱ	◎	◎		◎	○		◎	カウンセリングの基礎理論を理解する。 1. 自己理解のワークを通して、自分を見つめ直す。 2. コミュニケーション技法について学び、体験する。 3. 遊戯療法理論と実践を学ぶ。 4. ロールプレイを通してカウンセリングにおける応答の実践を学習する。	
コーチング論	◎	○		◎	◎		◎	コーチの役割について理解する。 コーチングを行う上で必要な知見を理解する。 コーチに必要な豊かな人間性、高い倫理観を身につける。 対象別の指導上の留意点について理解する。 地域社会で活躍する能力を修得する。	
スポーツ心理学	◎	○		○	○		◎	1. 体育・スポーツ及び身体活動が心身にどのような影響を与えるか理解する 2. スポーツ場面特有の心理現象について理解し、その対処方法について考える 3. 人間の“からだところ”の関係について理解を深める	
学習・言語心理学	◎	◎		○	○		◎	学生はヒトを含む動物の行動が変容する過程を理解している。 2 学生はヒトが言語を習得するメカニズムを理解している。	
行動統計学(心理学統計法)	○	○		◎			○	2. 汎用的技能 (3)人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。 収集したデータの測定レベルや型に適し、且つ、分析の目的にあった統計手法が選択でき、正確な計算により得られた結果が正しく解釈できる。	
運動生理学	◎			○			◎	1 生体の持つ様々な機能およびその調節機構を修得している 2 生体の構造、エネルギー機構、呼吸循環機能、中枢神経機能といった生理学的基盤を修得している 3 生体の諸機能と運動との関連、健康づくりとの関連、身体機能の測定評価方法について理解し、様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用することができる	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的な視野を基盤として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。								
科目名	知覚・認知心理学	◎			○						◎			知覚・認知心理学の知識を身につける。 1. 知覚・認知心理学に関する用語を説明できる。 2. 日常の知覚・認知にまつわる現象を心理学的に説明できる。 3. 知覚・認知心理学が臨床や社会においていかに応用されているのかについて具体例を挙げることができ、日常の心身健康を含む課題に対する解決案を提案することができる。		
	社会・集団・家族心理学	◎									○			人間関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響に関する心理学的知識を修得している。		
	スポーツ社会学	◎					◎		◎	◎	◎			(1) スポーツ社会学における専門知識を体系的に理解するとともに、人間・健康・身体テーマで専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。(知識・理解) (2) 多様な情報を収集・分析して適正に判断し、科学的思考性や論理的思考性のもとに、身につけた専門技能・技術とモラルに則って効果的に活用することができる。(汎用的技能)		
	スポーツ経営学	◎				○		◎	◎	◎	◎			1. 実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身につける		
コース応用科目	心理学的支援法	◎	○		◎	◎		○	◎					心理学的援助に関する基礎的な観点を学ぶことで、健全な倫理観にもつきながら、 ①心の健康やウェルビーイング(幸福)を維持・増進する技能、および ②生活の中で健康課題を解決する能力の基礎的素養を身につけることを目標としている。		
	精神疾患とその治療		◎		◎						○			精神医学の現代における知見と医療全般の理解を深め、障害者への正しい認識を養う一助としたい。		
	心理学実験実習Ⅲ	◎	○		◎	○					◎			①心理検査の実施方法や解釈法などを習得し、心理学的アセスメントを行うための基本的技法を獲得することを目指す。 ②自身の検査結果を基に自己分析を行い、自己理解を深めることを目標とする。		
	心理学実験実習Ⅳ	◎	○		◎	○					○			心理学の卒業研究に繋がる基礎的な考え方について、実験実習を通して身につける。		
	応用解剖生理学	◎				○					○			骨格系、筋肉系、神経系の構造について説明できる。 人間の生理的機能について説明できる。 人間科学に関わる幅広い知識を理解する。		
	衛生・公衆衛生学	◎			◎					◎		○		・衛生・公衆衛生の講義を通して、健康の保持・増進を図り疾病を予防するための知識を習得する。 ・呼吸器疾患、感染症、精神疾患などの疾病を主に取り上げ、それぞれの疾病の病因と治療方法についての知識を習得する。 ・健康管理や健康診断の重要性とその方法を理解し、生活習慣病の予防と治療法を理解する。		
	コーチング論実習Ⅰ	◎	◎		○	◎		◎	◎			○		・体ほぐしの運動、体づくり運動、器械運動に対する知識とスキルの習得 この授業は、体験・参加型学習を導入している		
	コーチング論実習Ⅱ	◎	○		◎	◎		◎	◎			◎		1. 心身の状態をモニタリングするための知識や技術を身につける。 2. 心身の状態をセルフ・コントロールするためのスキルを習得する。 3. 自己理解を深め、他者や集団とのコミュニケーションについて音楽等を用いて積極的にこなすこと、適切なコーチング行動につなげる。		
	コーチング論実習Ⅲ	◎	◎			○		◎	◎			○		走動作、跳躍動作、投動作における身体の使い方を理解する。 これらの動作を競技レベルまで高めるための練習方法と健康や体力増進という目的で実施できる能力を修得する。		
	コーチング論実習Ⅳ	○	◎									○		1 バasketボールの基礎的技術・技能を習得する 2 バasketボールに関連するコーディネーション能力を習得する 3 バasketボールの指導にかかわる知見を習得する		
	コーチング論実習Ⅴ	◎			◎	◎						◎		運動の発達と学習についての実践的な理論を体験的に学習し、自らの能力向上に応用する真実を得る。		
	コーチング論実習Ⅵ	◎				○		◎				◎		水中運動に必要な基礎知識を理解するとともに、水泳指導に必要な基礎泳力(具体的には4泳法を25m以上)を身につける。		
	コーチング論実習Ⅶ	○	◎									○		バレーボールの学習指導法を理解し、コーチングスキルを身につける		
コーチング論実習Ⅷ	◎	◎			○						◎		1. コーチングの上で必要な観察法を理解する。 2. 観察によって得られた情報を取捨選択し、適切な判断力を身につける。 3. 個人および集団の活動(行動)を評価し、次のより良いコーチングに向けて積極的に議論する。			

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
科目名		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。		心と身体健康科学の複眼的思考力を基盤として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。
		地域スポーツ文化論(体育史を含む)	◎	○		◎	◎	◎	・基本的な運動文化について知識を修得している ・運動文化に関する場づくりの技法を修得している ・障がい者スポーツの文化の特性を理解できる ・運動文化が抱える現代的な諸問題に対してその解決に向けて意欲的取り組みができる
	スポーツ栄養学(生理学を含む)	◎			○		○	◎	1 各栄養素の性質と生体作用の知識を習得する 2 目的に応じた食事、エネルギー摂取の方法を習得する 3 健康づくりに関連する諸問題に対して、その解決に向けて意欲を持つことができる
	心身健康総合演習Ⅰ	◎	○		◎	◎	◎	◎	1. 人間科学に関わる幅広い知識の理解 2. 地域社会で活躍する能力の養成 3. 日本語の論理的文章を理解できる能力の養成 4. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成 5. 卒業研究に相応しいテーマについて考えること
	心身健康総合演習Ⅱ	◎	○		◎	◎	◎	◎	心身の健康増進に関連する卒業研究について、その知識とスキルを修得している。
	感情・人格心理学	◎	○		◎		○	◎	1. 自己や他者に関する理解を深めるために、心理学的観点を役立てることができる。 2. 生活場面において多面的に物事を考えるために、心理学的観点を活かすことができる。
	教育相談	◎	◎		○	◎	○	◎	教育相談の意義と必要性について考え、その上で、一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする。
	健康・医療心理学	◎					○	○	健康の増進と維持、疾患の予防と治療、健康・疾病に関する原因・診断の究明、およびヘルスシステム・健康政策策定の分析と改善等に対する心理学的知識を理解できること
	スポーツマーケティング論	◎			○	○		◎	レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。
	救急処置法	◎	◎		○	○	○	◎	健康管理で必要とされる知識と応急処置の方法を習得する。
	スポーツ科学実験実習	◎	○		◎		○	◎	スポーツ科学に関する基礎的な実験方法、データのまとめ方を理解する。 この授業は体験・参加型学習を導入しています。
	ウェルネス・プロジェクト実習	◎	○		○		○	◎	・地域団体や企業、行政が実施する事業に携わり、その就労体験を通して、事業の管理運営法や指導法についての実践する。
	応用生理学	◎			○		◎	◎	1 トレーニングに対する生体機能の変化についての知識を習得する 2 発育発達にともなう生体機能の変化についての知識を習得する 3 疾病予防のための運動の意義について習得する
	福祉心理学	◎	○		○	◎	○	◎	福祉関連領域における心理社会的課題および支援の実践について説明することができる。
	健康行動論	◎	○		○		○	◎	地域社会の生活環境の創造への貢献 人間科学に関わる幅広い知識の理解
	学校保健論	◎				○	○	○	1. 現代社会における学校保健の必要性と意義及び構造を理解する 2. 児童生徒の将来を見据えた健康の保持増進を図るための具体的な方策について提案できる 3. チームとしての学校における学校保健の推進について理解し、関係機関及び地域との連携方法を提案できる
卒業研究	卒業研究	◎	◎	○	◎	○	◎	○	卒業論文の作成に必要な以下の点について修得し、卒業論文を作成することを目指す。 1. 心身の健康に関わる幅広い知識を理解する 2. 健康課題に関する科学的な調査や実験等を実施し、論理的考察を行うことができる 3. 研究成果を適切にプレゼンテーションすることができる